

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	15-080	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>The association between alcohol use and depressive symptoms across socioeconomic status among 40- and 45-year-old Norwegian adults.            40-45 歳、ノルウェー人における抑うつ症状とアルコール摂取や社会的要因との関連</p>		
<b>執筆者</b>		
Marinez P, Neupane SP, Perlestenbakken B, Toutoungi C, Bramness JG.		
<b>掲載誌</b>		
BMC Public Health. 2015 Nov 19;15:1146. doi: 10.1186/s12889-015-2479-6.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール摂取、抑うつ症状、社会的要因		26585028
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>            中年層において社会的要因別に抑うつ症状とアルコール摂取との関連を明かにする。</p> <p><b>方法：</b>            2000 年と 2001 年に実施されたノルウェーの健康調査に参加した 40-45 歳の男女 10,872 人を対象として、自記式質問票によってアルコール摂取頻度と量を、10 項目からなるホプキンス症状評価票によって抑うつ症状の評価を、社会的要因は教育年数と就業状況を評価した。多項ロジスティック回帰分析で、教育年数と就業状況別に、アルコール摂取状況を独立因子として抑うつ症状を有する相対リスクを算出した。また、社会的要因の交互作用についても検討した。</p> <p><b>結果：</b>            飲酒 5 杯以上は、教育年数 11 年以下の群では抑うつとの関連を認め、非飲酒者を対照とした相対リスクは 1.6 倍で、統計的有意性を認めた。しかし、教育年数 16 年以上では関連を認めなかった。いずれの就業状況においても飲酒 5 杯以上は抑うつとの関連を認めた。多量飲酒の頻度はいずれの教育年数においても抑うつとの関連を認めなかったが、就業状況別検討では多量飲酒 13 回以上は抑うつと関連を認め、多量飲酒 6 回以下を対照とした相対リスクは非就労者 1.97 倍、非正規雇用者 2.33 倍で、統計的有意性を認めたが、正規雇用者ではこのような関連を認めず、就業状況による交互作用を認めた。</p> <p><b>結論：</b>            アルコール摂取と抑うつ症状の関連は、アルコール摂取のパターンや教育年数や就業助教などの社会的要因により異なる。</p>		